

【水の里の旅コンテスト 2021 応募企画】

【学生部門】 応募者名：東洋大学 国際観光学部 国際観光学科 杉本ゼミ

【タイトル】	水とともに生きる街 三島		
【サブタイトル】			
【都道府県名】	静岡県	【地域名】	三島市
【日程】	<input checked="" type="checkbox"/> 日帰り ・ <input type="checkbox"/> 1泊2日 ・ <input type="checkbox"/> 2泊3日 ・ <input type="checkbox"/> その他 ()		
【実施時期】	<input type="checkbox"/> 春 ・ <input type="checkbox"/> 夏 ・ <input type="checkbox"/> 秋 ・ <input type="checkbox"/> 冬 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 通年 / (実施時期:)		
【催行人員】	モデルコースのため、催行人員はなしとします。今回の代金はレンタルサイクル利用の場合として見積もりました。	【お勧めする旅行者層】	20～30代の体を動かしながら自然を楽しみたい人にお勧め
【旅行代金】	1400円 (大人1名)	【代金内訳】	500ml 水 100円 レンタルサイクル料 1000円 (ハレノヒサイクル 2時間半利用) 楽寿園入園料 300円
【企画趣旨 (伝えたいポイント及び旅行者が満足するポイント)】			
<p>※詳細な行程と各観光ポイントは別紙に記載。</p> <p>【伝えたいこと】</p> <p>私たちは静岡県にある「水の都」三島にて、この地域の水資源のもつ多様な魅力を存分に体験することのできるモデルコースを企画しました。水は人間が生きていくうえで必要不可欠な存在です。この企画を通して、そんな水の大切さを少しでも考えるきっかけになっていたかと思っています。</p> <p>この企画は紹介する箇所に各自で行ってもらえるモデルコースです。そのため、それぞれのポイントでどのように過ごすかは旅行者の自由です。それは川に入ったり、汲んだ水を飲んだり、写真を撮ったり、希少な動植物を探したり、寄り道をしたり…。様々な角度から三島の水について見てふれることで、三島の水の魅力に気付いてほしいと思っています。コースの最後には楽寿園に立ち寄っていただきます。楽寿園にはこれまでに見てもらった三島梅花藻が初めて発見された国指定天然記念物及び名勝区域の小浜池や、三島の歴史を学ぶことができる郷土資料館などがあります。水が三島にどのような影響を与えてくれているのか、そして水を保全することの大切さについて考えてほしいという願いから旅の最後の観光ポイントとして楽寿園をいれました。</p> <p>【三島について】</p> <p>三島に流れる水は富士山からの湧き水です。三島にはうなぎや三島野菜、それらを使用した三島コロッケや芋焼酎など、綺麗な湧水を利用してつくられた名産物が多いです。さらに、すべて地下水を源とする三島市の水道水は、まるやかな軟水でミネラルを含んだ水です。これは厚生労働省が示した基準を満たしているため、安全でおいしい水であることがわかります。しかし、三島の水は昔からずっと綺麗なままではなく、NPO 法人や地域住民の協力により綺麗で美しい水を守っています。</p> <p>昭和30年ごろ、国の工業化に伴い湧水量が減少し、深刻な水不足に陥りました。さらに川へ雑排水やゴミの不法投棄により、源兵衛川は荒れた姿になってしまったことがある過去を持ちます。それから NPO 法人グランドワーク三島の方たちや地域住民の協力により、26年の時を経て今の美しい三島の水を取り戻すことができました。</p> <p>【旅行者が満足するポイント】</p> <p>JR 三島駅は東京駅からは約1時間、新大阪からは約3時間で行くことができるため、日帰り旅行などで気軽に来ていただけます。今回はレンタルサイクリングを利用していますが、各観光スポットは距離が近いので徒歩とバスを利用して行くことも可能です。その日の天候や気分、お連れ様に合わせてお選びください。</p> <p>この旅では水の綺麗さや名産物だけでなく日常的に使用する水道水など、人々の生活が水の恩恵を受けていることを改めて感じることもできます。モデルコース内にある観光ポイントのほとんどが水に関連した場所ですが、それぞれの場所によって見ることのできる水や自然の景色の特徴が異なるため、三島という地域内だけで様々な水の魅力にふれることができます。また、水が綺麗な場所でしか生息できないホテルや季節ごとに変化する水辺の景色、川遊びや手押し井戸、綺麗な水を利用した食事など、水の都 三島を旅行者は五感で体験することができるのもこの旅の魅力のひとつです。他にも季節ごとに異なる景色や水の様子を近くで感じられる点や旅行費用を安くおさえられる点、自分のペースでモデルコースを巡ることができることによる旅行者ごとに変化する楽しみ方を見つけることができる点などの魅力があります。</p>			
【インパウンド対応のための工夫】 (※任意)			
<p>この旅行企画はモデルコースが記載されたマップが含まれたパンフレットを片手に自らのペースで参加してもらおう企画です。そのため、各言語に合わせたパンフレットを用意し、訪日外国人の方々にも理解しやすいモデルコースなどの情報を記載します。また、モデルコースにはうなぎ屋や和菓子屋など外国人の人が求める日本らしい食文化を楽しむことのできるお店が数多くあります。その中でも多言語対応ができる店舗をパンフレットに掲載します。</p>			

<p>【 催 行 実 績 】</p>	<p>※当該企画が催行されている場合や、催行されている別企画を元に一部変更したものの場合は有に☑してください。</p> <p>☐ 有 → いつ催行されましたか： <small>※募集ホームページアドレス（ある場合のみ）：</small></p> <p>☑ 無 → 今後の催行予定はありますか： ☐ 有 → いまごろ催行予定ですか： ☑ 無</p>
<p>【 特 記 事 項 】</p>	<p>観光案内所で三島の水を入れたボトル水(500ml)を販売します。飲み終えたこのペットボトルを案内所まで廃棄しに来てくれた人には代金を返金することでポイ捨て対策にします。また、食べ歩きが可能なものごみの処理として、他店舗や施設に協力を仰ぎゴミ箱の設置を依頼します。さらに、三島市内の特定のお店で利用できる800円で1000円分利用できる買い物券を発行し、三島でのモノ消費を促します。</p> <p>パンフレットを配布します。パンフレットにはモデルコースの他に買い物券が利用できる店舗や観光地情報、レンタルサイクルについてなどを記載します。パンフレットは紙パンフレット、電子パンフレットの2種類を用意します。</p> <p>白滝公園の水まつりや源兵衛川でのゲンジボタルが鑑賞できるイベント時には SNS を活用し、幅広い年代の人に興味を持ってもらう取り組みを行います。</p>

【 行程表 】

【サイクリング】 所要時間 約2時間半

三島駅—源兵衛川—雷井戸—三島梅花藻の里—佐野美術館—三嶋大社—水辺の文学碑—白滝公園—柿田川公園—楽寿園—三島駅

—自転車

【徒歩／バス】 所要時間 約3時間

三島駅—源兵衛川—雷井戸—三島梅花藻の里—佐野美術館—三嶋大社—水辺の文学碑—白滝公園(楽寿園前)…柿田川公園(柿田川湧水公園前)…楽寿園(楽寿園前)—三島駅

—徒歩、…路線バス、(バス停)

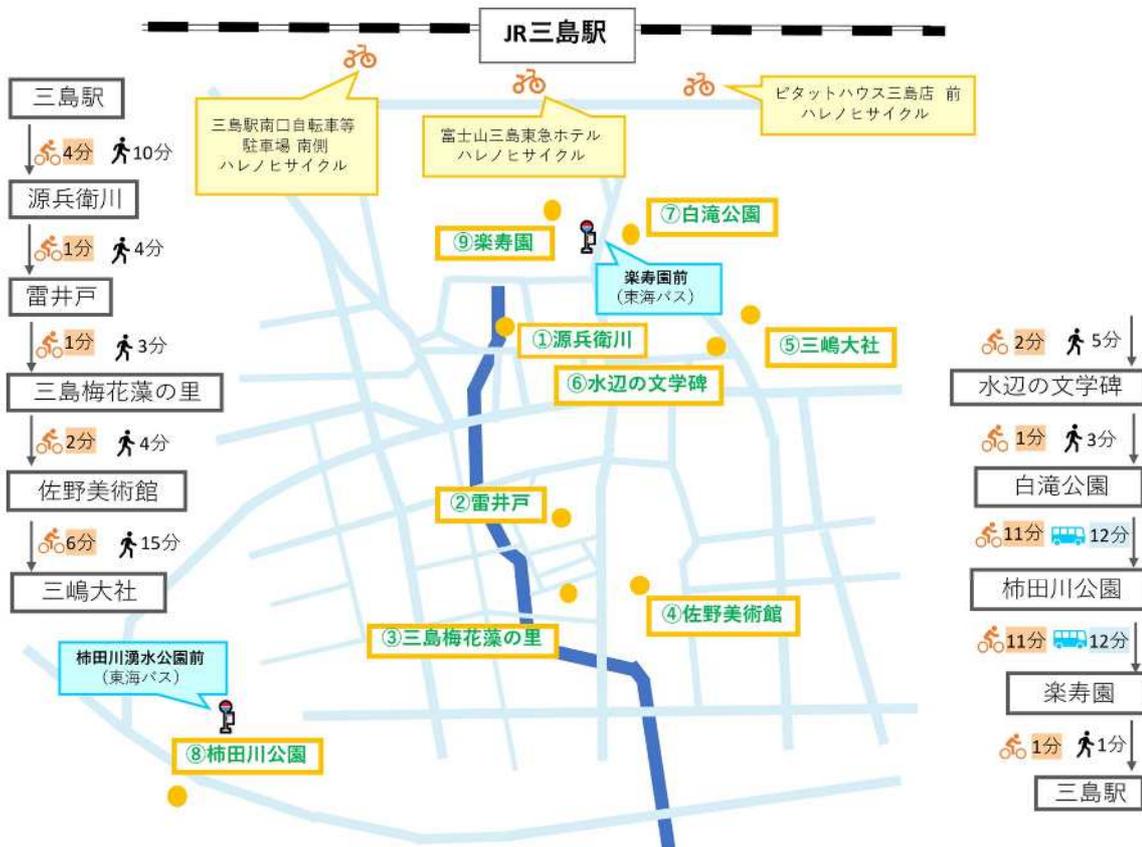
○三島のうなぎや三島野菜で作られたグルメなど三島駅周辺からルート内に数多くあり、三島コロッケや和菓子など食べ歩き可能なものもあります。

※食事は所要時間には含まれません。

※レンタルサイクリングは利用時間、自転車の種類によって料金変動します。15分毎に加算され、上限時間内であれば上限金額を最大としてそれ以上の加算はありません。上限時間以上ご利用の場合は、上限時間最大料金+時間使用料金(上限時間最大料金の運用有り)となります。(ハレノヒサイクル)

※バスをご利用の方は時間にご注意ください。また、行程表内で利用している東海バスはICカードをご利用いただけません。小銭をご用意ください。楽寿園⇄柿田川湧水公園前 200円

1日目



【主な観光ポイント（観光地・観光箇所の歴史、由来、土産物など）】

<p>ポイント 1</p>		<p>【源兵衛川】</p> <p>源兵衛川を流れるのは富士山の湧き水です。年間を通して15～16℃と夏は涼しく、冬は暖かさを感じることができます。源兵衛川は中郷温水池までの全長約1.5kmの農業用水路で、初夏にはホタルが舞い、暑い時期になると地元の子供たちで賑わいます。他にも三島梅花藻や魚などを見ることができ、川沿いには散策路が整備され、せせらぎを感じながら歩いたり、実際に手や足をいれて水の綺麗さなどを感じたりしていただけます。</p>
<p>ポイント 2</p>		<p>【雷井戸】</p> <p>ここはかつて田町水道と呼ばれ、地域住民の飲料水を供給する簡易水道の水源でした。1年を通して湧水が自噴しており、市内最大の井戸です。三島梅花藻を見ることができ、手押し井戸で水を汲むこともできます。</p>
<p>ポイント 3</p>		<p>【三島梅花藻の里】</p> <p>三島梅花藻は昭和5（1930）年に楽寿園の小浜池で発見され、ここは三島梅花藻を育てている公園です。水中に沈んだ糸状の細い葉と梅のような白い花が特徴で、水の汚染に敏感なため、綺麗な冷たい水でしか育ちません。また、花が咲くのは5～9月ごろですが、場所によっては一年中咲いています。NPO法人グランドワーク三島や三島ゆうすい会による保護活動が行われています。</p>
<p>ポイント 4</p>		<p>【佐野美術館】</p> <p>佐野美術館は昭和41（1966）年11月10日に佐野隆一が開館しました。展覧会を中心にしており、刀剣・人形・絵画・絵本など多様な内容で年に7回程度開催しています。</p> <p>美術館の開館中には隣接する国の登録有形文化財、隆泉苑の庭園も散策することができます。四季を感じることができる庭園には日本家屋の「隆泉苑」があります。</p> <p>※日本家屋内は一般公開していません。</p>

【三嶋大社】

大山祇命、積羽八重事代主神、御二柱の神を総じて三嶋大明神と称しています。創建の時期は不明ですが、古くから三島地に鎮座し、奈良・平安時代の古書にも記録が残っています。三嶋神は東海随一の神格と考えられ、平安時代中期「延喜の制」では「名神大」に列格され、社名・神名の「三嶋」は地名にもなりました。中世以降、武士の崇敬、殊に伊豆に流された源頼朝は深く崇敬し、源氏再興を祈願しました。神助を得てこれが成功するや、社領神宝を寄せさらに崇敬することとなりました。この神宝の中でも、頼朝の妻、北条政子の奉納と伝えられる国宝「梅蒔絵手箱 及び 内容品一具」は、当時の最上技術を結集させたものとして知られています。頼朝旗挙げ成功以来、東海道に面し、伊豆地方の玄関口として下田街道の起点に位置し、伊豆国 一宮として三嶋大明神の称は広く天下に広まっていきました。その後、明治4年の近代の社格制度では、官幣大社に列せられています。また、平成12(2000)年には御本殿が重要文化財に指定されました。他にも境内には天然記念物の金木犀(樹齢約1200年)などがあります。

春には参道をソメイヨシノや三島桜、神池周辺には枝垂桜が咲き、夏は例年8月15・16・17日の例祭では街道随一の盛り上がりを見せます。秋には金木犀が黄色の花を咲かせ、初詣には60万人が参拝しにきます。

三嶋大社には「福太郎」という草餅でこしあんでくるんだ草餅です。生命力を宿す餅と邪気を払うヨモギを使用した縁起餅で、静岡県無形民俗文化財に指定されている「お田打ち神事」に出てくる福太郎をモチーフにしたとされています。



【水辺の文学碑】

ここでは太宰治や大岡信など三島にゆかりのある12人の文学碑が桜川沿いに並び、三島のせせらぎなど三島を舞台にした多彩な文芸作品が描かれています。桜川では淡水魚のハヤの回遊を眺めることができます。



【白滝公園】

湧水が白い滝のように流れていたことから名づけられた白滝公園は、地面がポコポコしており、富士山の溶岩が三島まで流れてきた証です。公園内には富士山の雪解け水が湧き出る湧き間を見ることができます。

近くには足湯ならぬ「足水」が体験できる場所や、「めぐみの子」というからくり人形が三島の水を汲んでくれる場所もあります。めぐみの子が汲んだ三島の水をぜひご賞味ください。

ポイント
8



【柿田川公園】

柿田川は富士山の雪解け水が地上に湧き出る湧水群があり、1日120万トンの富士山からの湧水を水源とする稀有な川です。国の指定天然記念物に指定され、日本三大清流のひとつでもあります。清流とは水質がよく、汚染が少ない川の総称です。日本三大清流は他にも生態系が豊かなことや、里山の原風景が残されていることなどを総合的に判断されます。他にも「日本名水百選」「21世紀に残したい日本の自然百選」などに選ばれています。公園内は遊歩道が整備され、アユの遡上やミシマバイカモ、カワセミ、ゲンジボタル、アオハダトンボなどの希少な生物も見ることができます。また、展望台からは一年中青く透き通った水が湧き出る「湧き間」を見ることができます。

ポイント
9



【楽寿園】

豊かな森に囲まれた公園で、明治維新で活躍した小松宮彰仁親王が明治23（1890）年に別邸として造営され、昭和27年からは市立公園となりました。昭和29（1896）年には富士山の雪解け水が湧き出す景観と庭園が国の天然記念物および名勝に指定されました。さらに平成24（2012）年には「伊豆半島ジオパーク」のジオサイトとしても認定されました。園内には富士山からの溶岩（三島溶岩流）や四季折々の樹木を見ることができます。また、楽寿館には人間国宝や明治時代を代表とする日本の画家によって描かれた210面に及ぶ襖絵・杉板戸絵・天井画などが施されており、これらは静岡県指定の文化財に指定されています。他にも郷土資料館や動物と触れ合える広場などもあります。

○楽寿館見学ツアー 約30分（1日6回）

9：30／10：30／11：30／13：30／14：30
／15：30

ポイント
10



【うなぎ】

浜名湖などから三島に活きたまま運ばれたウナギは、水立場で約1週間餌なしで三島の湧水にさらされます。これにより余分な脂肪や臭みが消え、おいしいウナギになります。「うなぎの味は水の良し悪しで決まる」と言われ、ミネラルを多く含む三島の水が良いということがわかります。三島駅から伊豆箱根鉄道の三島田町駅まで10店舗以上うなぎを取り扱う店が点在し、中には1856年創業の老舗店もあります。

<p>ポイント11</p>		<p>【チットラッツ(株式会社 内田酒店)】</p> <p>三島甘藷(サツマイモ)と三島湧水で作られた本格芋焼酎です。チットラッツとは「少しずつ」という三島ことばで、デザイン、ネーミング共に三島出身のデザイナー木村美穂さん、イラストレーター清水詔子さんが手掛けました。口当たりがよく、後味にも快い余韻があります。飲みやすく、普段芋焼酎をあまり飲まない人にもおすすめです。特に三島名物の「うなぎの蒲焼」との相性は最高です。</p>
<p>ポイント12</p>		<p>【みしまコロッケ】</p> <p>みしまコロッケのルールは「箱根西麓の三島馬鈴薯(メークイン)を使用する」というだけで、形などは各店舗の自由です。三島馬鈴薯は「箱根西麓三島野菜」というブランド野菜の一つで、出荷されるのは7月ごろの約一か月のみです。平成22(2010)年には直径約2.5m、約2000人分の日本一大きいコロッケづくりに成功しました。また、平成26(2014)年にはTBS系で放送された「ごめんね青春!」とタイアップをした「みしまコロッケパン」が全国のローソンで販売されました。平成30(2018)年には「同時に食べさせ合いをした最多ペア数1980組3960人」でギネス世界記録を達成し、みしまコロッケで町おこしをしたいという日本大学三島高等学校の発案に対し、各種団体が賛同、協力をしました。みしまコロッケはみしまコロッケの会の認定店のみで販売でき、認定店は「みしまコロッケ」ののぼり旗が目印です。</p>